



編集・発行 日蓮宗 能勢妙見山 広報部 〒563-0132 大阪府豊能郡能勢町野間中 電話 072-739-0329 FAX 072-739-2883

### 四劫を出でたる 常住の浄土なり

日慧

地震、台風、豪雨。それに伴う土砂災害など、被害に遭われました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様には一日も早い復興をお祈り申し上げます。

この近年、驚異的な自然災害が次々に起こっているようです。当山でも土砂崩れや倒木が見られました。また警報なども毎日のように発令され、いい加減にしてくれと言いたくなる中、この先地球はどうなっているのかわからない不安をさえる感じるほどです。古生物学者によると、多数の生物が同時期に滅びる

現象を「大量絶滅」と呼ぶそうです。地球の歴史の中で、大量絶滅は少なくとも十一回は起こったと言います。その原因は様々で、気候の変動もその一つではないかと言われているのは不気味な気がします。

仏教の世界観には、四劫という概念があります。劫とは、未来永劫という言葉があるように、大変長い時間の単位を表しています。この宇宙・世界の成立する期間を成劫といい、成立した世界が存続する期間を住劫。形あるものはいつか滅していき、その壊滅に到る期間を壊劫。そして次の世界が成立するまでの何も無い期間を空劫と言います。この世が壊滅するなんて

恐ろしいことですが、新たなものが生まれるためには一度全てがなくならなくてはならないと言うのは、道理として当然のことではあります。でも自分がいるうちはそんなことにはなつて欲しくないというのが誰も

「四劫を出でたる（壊滅することのない）常住の浄土なり」と説かれます。法華経お題目に身を委ねて、世界中の人々が力を合わせれば、必ずや災害をも乗り越え常住の浄土が実現できると信じます。

### 《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

各諦らかに

思惟せよ

此れは

為れ

難事なり

宜しく

大願を

發すべし

『見宝塔品第十二』

世界が激しく揺れている。この先日本はどうなるか。今こそみんなで考えよう。天災地変の続く中、政治・経済とんづまり。打開の策はないものか。時に当たれば難局に挑む勇氣が必要だ。狭き門。叩けよさらば開かれん。まさに大願立てる時。

### 【10月の主な行事】

★享経会 14日(日)11時

★月例祈願法要 15日(月)13時

★星嶺演奏会 21日(日)11時

★星嶺茶論 21日(日)13時

★お題目の太鼓練習です。

★鷗様月例祭 22日(月)15時

☆お風入れ宝物館公開展示 22日(月)15時

◎年に一度の宝物公開展示 22日(月)15時

◎年に一度の宝物公開展示 22日(月)15時

◎年に一度の宝物公開展示 22日(月)15時

### 【11月の行事予定】

☆七五三詣祈禱 1日(土)30日

◎お子様の成長を祈って、七五三詣祈禱を11月中、執り行っております。

※祈禱札と記念品を授与

御祈禱料三五〇〇円

☆宗祖日蓮聖人御会式法要 10日(土)11日(日)

※お会式様とおはぎの供養

★享経会 11日(日)11時

★月例祈願法要 15日(木)13時

★星嶺演奏会 18日(日)11時

トランペット生演奏

★星嶺茶論 18日(日)13時

★お題目の太鼓練習です。

★鷗様月例祭 22日(木)15時

※火伏守札を授与

《交通のご案内》

◆ケープル&リフト毎日運行中

※妙見の森リフトは復旧しております。

### 後悔したからこそ

箕浦 溪介

「あんなことしなればよかった」「あのときこうしておけばよかった」と人生には数え切れないほどの後悔があるものです。しかしあの時後悔したおかげで今の自分がある、幸せであると思えることがあるのではないだろうか。

私が高校生の時である。事の発端は所属していた部活を辞めたことにある。入部して半年、どうしても顧問の先生との馬が合わなかった。先輩、同級生、たくさんの人に説得されたが当時の私は聞く耳を持たなかった。それでもその時親に言われた言葉は今でもはつきりと覚えている。「辞めてもいい。けれども嫌なことから逃げた先には必ず後悔が待っている。その覚悟はしなさい。」言われた時はこんなに嫌

な事から解放されるのに後悔することなんてないと思っていた。しかしそれはすぐに現実のものとなった。

私は部活の仲間を裏切ったという罪悪感から顔すらもあわせられなくなった。目で姿を確認しようものならトイレに隠れたり道を引き返したりとそんな有様であった。そこから先の高校生活はひたすら嫌な事から逃げ続ける日々で、人間不信にもなった。「あのとき辞めずにいたらこんなことには」それはもう何度も後悔したものである。

しかし私はこの後悔をしたからこそ今の自分がある。と確信している。この後悔をしたから自分を変えるためお坊さんになる、仏門に入る事ができたのである。厳しかった大学の僧道生活もあの時の後悔を知っていたからこそ乗り越える事ができた。乗り越えたからこそ仏門に入れたことの幸せ

昨年から災害に悩まされている。直撃した地域に比べれば被害は軽いが、毎日の法務や生活で手一杯のところ、土砂で埋まった排水溝の掃除や倒木処理など、体力的にキツイだけでなく精神的にもうんざりしてしまう。とはいえ溝掃除は普段目が届かないところ

### ☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

を掃除する良いきっかけになったし、倒木処理も趣味の木工の材料集めと思えばなんだか楽しくなってきた。起こったことは仕方がない。無理して自分が倒れては本末転倒だが、できることを楽しみながら少しずつでもやっていくことが大切なのかもしれない。U.K

も感じる事ができた。あの時の後悔は仏門に入るためのご縁だったのだと今では思う事が出来る。選択肢を迫られたとき楽な方に行くことは簡単だ。しかしそれは後悔する覚悟をしなければならぬ。その後悔から何を学ぶのか、次にどう繋げるかを考えるのが大切である。後悔を後悔のまま終わらせるのではなく未来の自分への糧にしていきたい。

**俳 壇** （みのり）

台風来揺らぐ電柱飛ぶ瓦

野地蔵の足元埋む草紅葉

仔犬駆けほろほろ転ぶ童の玉

西日浴び鴉からすの黙や風風る

つつましく式部色づく庭の隅

### 法華経茶話

三車火宅喻（一）  
まず最初に三車火宅の喩えについてみていきます。三車火宅の喩えは譬喩品第三に説かれている教えです。

ある資産家の邸宅が火事になり、瞬く間に火が燃え広がりました。しかし資産家がいくら火事だと叫んでも子供達は遊びに夢中で聞く耳を持ちません。このまま放っておけば子供達は焼け死んでしまいます。そこで資産家は、子供達が三種類の玩具の車（羊の車、鹿の車、牛の車）を欲しがっていたことを思い出し、それらの玩具が門の外にあるから出てきなさい、と言うと子供たちは一目散に飛び出してきた助かりました。その後子供たちが約束の車をねだると、資産家は玩具ではなく、純白の本物の牛に引かれた車（大白牛車）を与え、子供たちは想像を遙かに超える宝を得たのです。